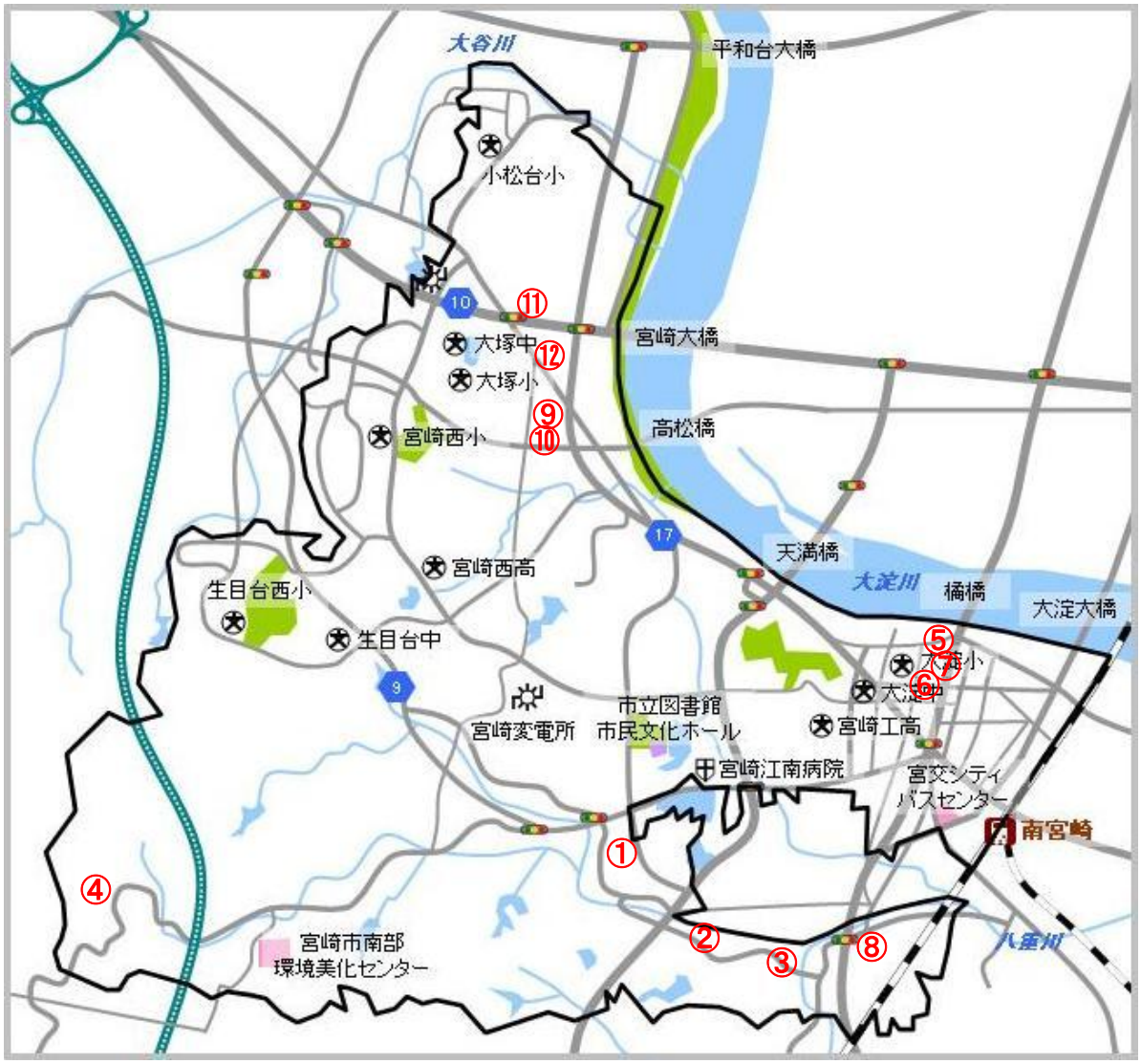
中央南地域の文化遺産
（大淀・大塚・大塚台・生目台地域自治区管内）

【地域の歴史と特色】

中央南地域は、大淀川下流の右岸に位置し、河川に接する北東部には沖積低地が広がり、南西部には標高20m前後の丘陵が連なっています。
「建久図田帳」には、宇佐八幡宮領に「大墓別府二十丁」、八条女院領国富庄一円庄内に「太田百丁」と記され、それぞれ現在の大塚町付近、大淀付近に比定されています。
近世は、太田村・古城村・大塚村に分かれ、延岡藩領（一時、幕府領の時期あり）に属しました。太田村に含まれる中村町には大淀川の渡場があり、同町の北西にあった福島町とともに、物資の集散地として栄えました。

【文化遺産マップ】



大淀地区

① 伊満福寺（いまふくじ）

真言宗伊満福寺は、山号を池上山といい、日向七堂伽藍の一つにも数えられています。寺伝によれば、推古天皇21年（613）、聖徳太子の命により、天皇の勅願所として百済の官人日羅が開山したと伝えられています。

室町時代は伊東氏の庇護を受け、祈祷所として寺領64町を拝領しています。戦国期には無住職となるなど荒廃した時期がありましたが、再び伊東氏領となってからは曾井城の祈祷所となり、領主の庇護を受けました。

江戸時代に記された「宮崎役所万覚」（内藤家文書）によれば、延岡藩牧野氏の時代に代官所の祈願所に命ぜられ、村方の五穀豊穣を祈祷し、守札を代官所へ進上したと記されています。都於郡（西都市）の黒貫寺や鵜戸（日南市）の仁王護国寺とも密接な関係にあり、真言宗として宮崎地方に一大勢力を持った寺院として栄えました。

明治4年（1871）の廃仏毀釈で廃寺となり、大塚長久寺の管理となりましたが、再び明治17年に復寺して現在に至っています。

観音堂には、日羅が持参したと伝えられる聖観世音菩薩像が、本堂には古城出身の仏師串間円立院作の不動明王像と両脇侍が安置されています。

境内には木崎出身の仏師平賀快然作の仁王像、円立院作の六地蔵・阿弥陀如来像など多くの石仏があります。古城は良質な石の産地であることが、このように多くの石仏が祀られている要因の一つになったと考えられています。

② 護東寺跡（ごとうじあと）

伊満福寺の南東およそ500mの小高い丘の上に護東寺跡があります。

山号を宝來山と言い、元禄12年（1699）に伊満福寺49世法印頼雄によって開山され、明治15年（1882）頃まで続いたと言われています。

現在は、境内に薬師堂・阿弥陀堂があり、護東寺第6代住職をつとめた串間円立院作の弘法大師、阿弥陀如来、地蔵菩薩など多数の石仏が立ち並んでいます。

護東寺に関する文書が残されていないため、その全容を知ることはできませんが、真言宗伊満福寺との関係からその修験道場であったと考えられています。

③　串間円立院の墓（くしまえんりゅういん）

後藤寺迫の共同墓地に、仏師串間円立院（1748-1834）の墓があります。

串間氏は、もともと飫肥藩領曾井（現宮崎市大字恒久）の出身で、古城の護東寺の住職を代々務めてきた家柄です。円立院自身も護東寺の第6代住職であり、峰入り修行を行うなど修験僧として活動しました。その墓碑銘や護東寺跡の稲荷大明神守護塔の銘文から、大峰山での3回の峰入り修行と奥駈け行を行い、三所権現に詣でたということが分かります。

当時の修行には、奥駈け・山篭りのほか、廻国巡礼、仏像彫刻、木喰戒などがあり、円立院も修行の一環として仏像彫刻を行いました。現在、円立院彫作で確認されている仏像は362体で、そのほとんどが石仏です。50歳までは神像や仁王像など大作を彫像しましたが、晩年には弘法大師像や役の行者像など比較的小さな仏像を建立するようになりました。

④　古城神社（ふるじょうじんじゃ）

明治2年（1869）の『延岡藩調書』によれば、古城神社は享保4年（1719）に勧請されたと記されています。祭神はオオヤマヅミノミコト、アマツヒコホホノニニギノミコト、コノハナサクヤヒメで、毎年春分の日には古城地区の五穀豊穣を祈願して春神楽15番が奉納されています。

古城神楽（民俗芸能）

⑤　橘橋（たちばなばし）

2代目橘橋（明治21年架橋）

初代橘橋（現在は7代目）は、明治13年（1880）に中村町の医師福島邦成によって初めて架けられました。

福島邦成が生まれたのは、文政2年（1819）。17歳の時に江戸・京都・大阪に上って西洋医学・薬学を修めて医師となり、後に中村町へ帰り、医師として延岡藩に仕えました。

明治12年（1879）、60歳となった邦成は、大淀川架橋の必要性を唱え、翌13年に私財を投じて初代橘橋を架橋しました。

邦成は、自ら橘橋と命名し、渡り賃を取ったため「退庵（邦成）は大きな箸(橋)で飯を食ひ」と川柳に詠われました。

明治17年（1884）に、県によって2代目橘橋が架け替えられ、その後は流失を繰り返しましたが、その度に架け替えられて現在に至っています。

⑥　中村町（なかむらちょう）

大淀川の南岸、中村町は江戸から明治時代にかけて栄えた街です。その語源は中心を意味する「那珂」に由来すると言われています。

伊東氏滅亡後、天正13年（1585）に島津氏による町立が行われました。その際、都於郡伊東氏の家臣であった黒木家他13軒がこの地に移り住んだのが始まりであると伝えられています。

江戸時代は延岡藩領・幕府領と何度か帰属が変わりましたが、古城の伊満福寺の門前町、あるいは飫肥藩領城ヶ崎とともに交通運輸の中心として栄えました。やがて西側の新開地に新花街が出現すると、三枡屋、関屋、河内屋、名月屋、金子屋などの遊郭が軒を並べるようになり、その繁栄は明治の中頃まで続きました。

⑦　最勝寺跡（さいしょうじあと）

源藤交差点南西の高台に最勝寺跡があります。

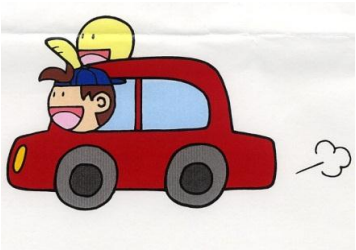
山号を初瀬山といい、旧寺名を長命寺と称しました。真言宗伊満福寺の末寺で、開山年代及び開基者は不詳ですが、『日向記』には、天正18年（1590）に伊東祐兵が長命寺に立て籠もった義賢（祐兵の甥）派36人を攻め、24人を討ち取ったと記されています。

現在は宅地造成のため、小さな仏堂が残されているのみですが、境内には串間円立院作の弘法大師像など、いくつかの石仏が残されています。

⑧　両国橋（りょうごくばし）

源藤交差点東側の旧道に両国橋という橋がかかっており、古くは飫肥街道にかかる橋として親しまれていました。八重川を挟んで北が延岡藩、南が飫肥藩と分かれていたため、両国橋と名付けられたと伝えられています。

また、『日向地誌』には、飫肥伊東氏と延岡内藤氏が協力して架したため、地元の人たちから寄合橋と呼ばれたとも記されています。



大塚地区

⑨ 長久寺（ちょうきゅうじ）

真言宗長久寺は、山号を蓬莱山といい、永禄6年（1563）に創建されたと伝えられています。江戸時代は伊満福寺の末寺でしたが、明治4年（1871）に伊満福寺が廃せられると、同寺の名前をとって伊満福寺と改称しました。そして、同17年（1884）に、伊満福寺が復寺すると、再び寺号を長久寺に復しました。

木造六観音像（市有形文化財）（もくぞうろくかんのんぞう）

長久寺の本尊、木造六観音像は、像高は34.3～36.5cmで（写真左から順に）十一面観音、千手観音、准胝観音、馬頭観音、如意輪観音、聖観音で構成されています。像の頭部内面や台座には「永禄六年」「奈良宿院仏師源次」などの墨書銘が見られ、宿院仏師の作であることが知られています。

宿院仏師とは、16世紀に奈良宿院町を中心に活躍した仏師集団です。その出自は建築土木の木工事に携わった番匠といわれ、仏師として自立した後も、俗名をそのまま作者名とすることから俗人仏師とも言われています。

木造六観音像のように製作年や作者が判明している作品は珍しく、当時の奈良と宮崎との文化交流を知る上で貴重な資料として高く評価されています。

木造弘法大師像（市有形文化財）（もくぞうこうぼうだいしぞう）

木造弘法大師像は、像高81.0cm、像内に「永禄六年八月」「作者　源次　原四郎　源五郎　良紹」の墨書があることから、宿院仏師一門である源次とその息子たちの作品であることが分かっています。

先に紹介した木造六観音像とともに、奈良宿院町の工房で製作され、宮崎に運ばれてきたと考えられています。

正徳4年（1714）に、仏師甲斐権右衛門重慶により修理・彩色が施されています。

⑩ 蓬莱山城跡（ほうらいさんじょうあと）

長久寺がある蓬莱山は中世の山城です。『延陵世鑑』には、県（現延岡市）領主土持宣弘（宮崎土持氏の祖）が永徳年間（1381-84、北朝年号）に築城したとあり、田部姓土持氏系図には、建武2年（1335）に土持宣栄が居城としたと記されています。標高は34mで、主郭の周りには二段の帯曲輪が巡り、東麓の長久寺側には腰曲輪を配しています。

この付近の地名である「城の下」は、この城に由来すると考えられています。

⑪ 宮崎市大淀古墳（県史跡）（みやざきしおおよどこふん）

宮崎市大淀古墳は、大淀川の右岸、標高7～8mの低地帯に位置しています。

大塚の地名は、古くは「大墓」とも書き、「数多くの古墳」という意味に由来していると言われています。

現在、大塚町には前方後円墳2基、円墳3基、横穴1基が残されています。3号墳は前方後円墳として指定されていますが、現在は径40mの後円部のみが残されています。

大淀６号墳

⑫ 大塚神社（おおつかじんじゃ）

社蔵の安永9年（1780）の棟札によれば、斉衡年間（854-857）に土持左衛門尉景綱が宇佐八幡を勧請して創建したと伝えられています。

文永元年（1264）に伊東祐時により再興され、弘治2年（1556）の「土田帳」（予章館文書）には、大塚八幡領として大塚内に田三町二反・修理田三反・釘作田一反・畑四反と屋敷四カ所の記述が見えます。

祭神は、タマヨリヒメノミコトなど3神を祀り、毎年3月頃には豊作を祈願して春神楽20番が奉納され、8月には獅子舞が舞われています。

大塚神社春神楽（民俗芸能）